

PROGRAM NOTE

2006

近藤 譲：イン・ノミネ（レスニェフスキー風子守唄）

ピアノ独奏のための

In Nomine (Berceuse a la Lesnewski)

for solo Piano

後期ルネッサンス以来、バロック時代を中心として、多くの作曲家達が《イン・ノミネ》と題する曲を作曲した。それは、即ち、グレゴリオ聖歌の《Gloria tibi Trinitas》の旋律を定旋律として用いた器楽曲である。その伝統を現代に蘇らせようと、ドイツのアンサンブル・ルシエルシュは、現代の何人もの作曲家に、新しい《イン・ノミネ》の作曲を委嘱している。

その委嘱を受けて書いた私の《イン・ノミネ》は、和声的な性質のピアノ独奏曲だが、この和声は、定旋律の構成音一音一音に和音による色彩付けを行うことから生じたものである。副題にある「レスニェフスキー」とは、ポーランドの論理学者スタニスラフ・レスニェフスキー(1886～1939年)のことである——彼は、「メレオロジー」と称する、「部分と全体」に関する理論を提唱した。音楽作品（或いは、曲）の構造は、そして、特に私の音楽の構造は、曲を構成する諸音の「メレオロジー的総体」だ、と私は考えている。

この作品は、2006年に作曲され、同年、ドイツのシュトゥットガルトで初演された。

近藤 譲

初演：2006年6月(ドイツ シュトゥットガルト)

初演者：アンサンブル・ルシエルシュ (ピアノ)

委嘱：アンサンブル・ルシエルシュ (ドイツ フライブルグ)

出版：University of York Music Press (UK)

演奏時間：3分